

会 議 録 （要約版）

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回弘前市上下水道事業経営審議会
開 催 年 月 日	令和5年3月15日（水）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前10時30分 から 午前11時35分 まで
開 催 場 所	弘前市役所岩木庁舎2階 多目的ホール
議 長 の 氏 名	弘前大学人文社会科学部長 飯島 裕胤
出 席 者	会長 飯島 裕胤 委員 佐々木 公一 委員 青木 智美 委員 齊藤 嘉春 委員 山内 正治 委員 藤田 礼美
欠 席 者	委員 船水 良之 委員 鶴ヶ谷 和子 委員 三上 敬子
上下水道部職員 の出席者	上下水道部長 坂田 一幸 総務課長 田中 知巳 工務課長 小野 敦弘 上水道施設課長 工藤 和生 下水道施設課長 本間 嘉章 総務課長補佐 中村 洋幸 営業課長補佐 中村 徹 工務課長補佐 田沢 司 工務課長補佐 奈良岡 健 上水道施設課長補佐 三上 博英 下水道施設課長補佐 丹代喜代一 総務課主幹兼企画係長 西舘 俊樹 工務課主幹 工務課主幹 兼上水道建設係長 小山内 明 兼浄水場整備係長 鳴海 計哉 総務課経理係長 八木橋達雄 総務課総務契約係長 齊藤 智子 総務課総括主査 菊池 秀行
会 議 の 議 題	【報告事項】 ・ 令和3年度～令和5年度 水道事業会計及び下水道事業会計の概要 について ・ 樋の口浄水場等建設事業 物価変動に伴う契約額の増額変更と進捗 状況について
会議資料の名称	資料1 令和3年度～令和5年度 水道事業会計及び下水道事業会計 の概要について 資料2 樋の口浄水場等建設事業 物価変動に伴う契約額の増額変更 と進捗状況について
会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)	1 開会 2 上下水道部長挨拶 3 報告 (1) 令和3年度～令和5年度 水道事業会計及び下水道事業会計の 概要について ※資料1を基に、総務課より説明。 (2) 樋の口浄水場等建設事業 物価変動に伴う契約額の増額変更と 進捗状況について ※資料2を基に、工務課より説明。  進行は議長（飯島会長） 各委員との質疑応答等は以下のとおり。

**【報告事項】**

**(1) 令和3年度～令和5年度 水道事業会計及び下水道事業会計の概要について**

**青木委員**

水道事業会計について、資料8ページの令和5年度当初予算、事業収益の金額の推移をみると下がり続けていますが、令和5年度に上昇に転じている要因を教えてください。

**経理係長**

令和4年度については、物価高騰、燃料費の高騰で特に施設の電気料が当初の3割増し程度というところが一番の要因と考えております。水道料金収入の方も減少しているのですが、電気料の高騰により、8千万円ほどしか純利益を確保できなかったものです。

令和5年度につきましては、当初予算の査定において事業費用を相当絞り込んでおります。また、一般会計からの繰り入れが増えることが事業収益増加の見込みの要因であります。

**青木委員**

資料14ページの下水道事業会計予算の編成方針で、汚水処理人口普及率及び水洗化率の向上を目指すとありますが、令和4年度は実際に汚水処理人口普及率、水洗化率が向上したのかどうか、それが利益にプラスの要因をもたらしているのか、今後も普及率があがれば、事業の利益が増加するのかを伺いたいです。

この普及率というのは、この地域の人口が分母で分子が利用している人、実際に下水道のサービスを受けている人だとすると、人口が減ると、自動的に普及率が増加するという考え方でよろしいでしょうか。

**経理係長**

令和4年度の普及率については、申し訳ありませんが資料を持ち合わせておりません。

地域の人口、分母が減ると普及率が増加するというのは一概には言えないと思われます。仮に普及率が増えたとしても、利用する実人数が減ると、その分収入も減ることが考えられます。また、下水道をつなげるエリアにいらっしゃるのにまだつないでいない人もいますので、つないでいただいて、少しでも料金収入を増やしていきたいという思いもあります。

### 総務課長

補足いたします。下水道の普及率について、令和4年度はまだ決算が出ておりませんので、令和3年度の普及率をご説明します。令和3年度末で97.7%、令和2年度と比較して、0.1ポイント増加しております。また、行政区域内に住民登録している人口のうち、下水道を使える区域の人口の割合で普及率を出しております。

### 佐々木委員

下水道事業の内部留保資金の残高の推移を見てみますと、令和7年度から、大きなマイナスがどんどん増えていくという数字になっています。前回とその前の審議会では、令和4年度以降は増加の見込みという説明だったと思うのですが、突然、年間6～7億くらいマイナスが増えていくというのは、どこが大きく変わったのか、資料13ページの図で行くと、純利益と減価償却費のところが内部留保資金となって、資本的収支の不足分を補填するという図になっていますが、これのどの部分が変わってこういう数字になったのか教えてください。

### 経理係長

先ほども触れさせていただきましたが、まず、収益的収支の部分で、施設の電気料の高騰があります。2つ目の要因として、使用料収入の減少というものもあります。3つ目の要因として、岩木川浄化センターの負担金、これは県の事業ですが、県で施設管理する経費について、弘前市を含む流域の市町村で負担金を支出しています。物価高騰や最低賃金アップなどのところで、施設の維持管理の経費が上がっています。上り幅として、県から示された見込み額は、負担金が毎年数千万から1億円単位で弘前市の負担が増加し、収益的収支が令和5年から赤字となってしまいました。令和6年度以降も非常に厳しい予算編成になると考えております。

### 佐々木委員

収益的収支のところの、支出が大きく増えたというのが一番大きい要因ということでしょうか。

### 経理係長

そのとおりです。令和5年度の予算編成では、予算査定の前段階で2億円近い赤字だったので、相当切り詰めたのですが、それでも、9千万円程度の赤字となってしまいました。収益的収支の部分で、支出が相当増えていることが、内部留保資金の残高が減少していく要因であります。

#### 佐々木委員

赤字を食い止めるには恐らく使用料を上げるしかないということなんですが、いつ頃値上げするのかというのが使用者としてはかなり不安があるのですが、今のところ予定はあるのでしょうか。

#### 総務課長

まず水道料金は、令和7年度で料金の見直しをするということで公表しております。下水道使用料につきましても、令和7年度には水道料金同様見直しが必要と考えています。

#### 齋藤委員

下水道事業について、建設改良費が令和5年度に約12億円と増えているのですが、令和5年度以降、増えていく傾向にあるのでしょうか。

#### 下水道施設課長補佐

国から下水処理場の耐震化、耐水化を求められており、下水処理場の改築事業に要する経費が年間4億円程度かかります。それに伴って事業費が増えているものです。

#### 齋藤委員

事業費が4億円程度ずつ増えていくということで、減価償却費も新規で加算され、最終的には収益に影響して内部留保が減っていくと。経費のところ、燃料費の高騰とか、それは予測できないことなんでしょうけど、建設費関係、減価償却費関係はある程度長いスパンで予測可能だと思うので、もっと長いスパンで固まった部分は教えていただければ、令和7年度に値上げした後にも、この辺でもう1回考えなければならぬとか、長いスパンで考えられると思います。今回お話いただいたような状況であれば、当然将来的には市民の負担は増えることにはなりますが、値上げは避けられないと思いますので、値上げ幅をどうするか、時期はどうするかなどを検討する際にも、一度値上げしてまたすぐにできるわけではないと思うので、その辺を検討できる長いスパンの資料があればいいと思います。

#### 総務課長

長期で見た場合の収入と支出のバランス、あとは企業債、借入ですよ。借入するためには財源を確保しなくてはいけないので、確保するためには収入の部分で、やはり値上げは避けて通れないものと考えております。先ほど下水処理場の耐震化耐水化ということでご説明しましたが、下水処理場では雨水の処理を行っており、一般会計を投入していくということで、直接的に下水道の使用料には影響がないので

すが、ただ、他の施設などの修繕などもありますので、長期的なスパンで見直しに反映させていきたいと思ひます。

#### **青木委員**

先ほどから下水道事業会計のマイナスのことが話題になっているのですが、資料18ページの内部留保資金が、令和7年度からマイナスになって、純利益も令和5年度からマイナスになって、返済は継続ということで、これは企業として成り立つのか数字をみて思うのですが、そもそも内部留保資金がマイナスになるということはあるのですか。それとも、マイナスにならないようになんらかの対策を取るのですか。

#### **経理係長**

かつて、内部留保資金がマイナスになった時期があります。

平成20年度から24年度まで累積赤字の時期がありました。平成25年度から黒字に転換して累積赤字が減少し、平成28年度で解消になったという時期があります。内部留保資金がマイナスだからといって、すぐに資金がショートするというわけではなく、そこについては毎月、資金予算表で現金をチェックしながら、毎月監査にも資料を提出して出納検査を実施しております。これからも資金残高の推移を注視しながら、水道事業会計や一般会計からの借り入れ、金融機関からの借り入れをして、資金ショートをさせないように管理していきたいと思ひます。

#### **藤田委員**

上下水道PR事業の予算額が49万8千円となっていますが、どのようなPRをしているのか聞きたいのと、令和7年度に上下水道の料金が上がる予定になっているとお聞きしましたが、災害時にライフラインが止まった時、水の問題が一番シビアに感じると思うのですが、そのへん、困るということを住民の皆さんに理解していただければと思うのですが、そういうPRは考えていますか。

#### **総務課長**

毎年6月1日から7日まで、全国的に水道週間を実施しており、当市でも毎年実施しています。内容として、一人暮らしの高齢者、身体障がい者の方を対象に、給水装置点検のサービスを行っております。また、市民の意見を上下水道部の事業の参考とするためアンケートを実施しているほか、水道に関するパネル展示、浄水実験、クイズなどをヒロロのイベントスペースで行っております。

さらに、毎年9月に土手町で開催しているカルチャアロードに昨年も出展しました。オリジナルペットボトル水の紹介、カラーマンホー

ルの蓋の展示、浄水実験、給水体験などを実施しました。

もう1つ、小学校の生徒さんたちに浄水場に来ていただいて、施設見学を実施しております。

このような機会において、災害時にどうすればよいかも含めて、皆さんにわかりやすいようにパネル、資料を作って周知するように努めております。

#### **藤田委員**

今までの実績で、水道料金が上がるなどの理解を得られるPRにつながると思われているのでしょうか。新たなPRなどはお考えですか。

#### **総務課長**

水道料金等の見直しは令和7年度を考えております。令和7年度に突然値段などの情報発信するのではなく、現在の状況を説明して、水道下水道を維持していくためにはこういうことをしなくてははいけませんよ、そのためにいくらかかるか、いくら必要かを丁寧に説明しながら、見直しのスケジュールを組んでいきたいと思っております。

#### **飯島会長**

資料18ページ、内部留保資金の残高がマイナスになっていますが、説明にありましたとおり、耐震化などの建設改良費に使うことは投資ですので、先々も使いますから、こういったものに費用がかかるというのは非常にポジティブな側面だと思います。それでマイナスになるとするのは、やむを得ないというよりもむしろ前向きに考えられると思います。あとは施設の電気料、これもやむを得ないところがあると思います。企業債残高がある中で、償還金も割とこの時期、増やしていますが、これも返済していったほうが優位になるという意味で、前向きにとらえられると思います。

委員からもありましたとおり、料金を上げる必要が出てくるのであれば、PRに努めるなど、きちんと理解を得ることが重要だろうと思います。今日も記者さんにも入っていただいておりますが、理解を十分に深めていただく、こういった理由でこういった状況なのかということの説明していく必要があると思います。

もう1つ、今後の課題になるかもしれませんが、不足するので料金を上げていきます、その後また、不足したから料金を上げていきます、そうなるのかもしれませんが、もう少し抜本的な対応、対策があるのかをぜひご検討いただきたいと思っております。やはり料金値上げはやむを得ないところではやらなくてははいけないし、我々が受け取るサービス、水道、下水道を維持していくための手段として必要なことだと思うのですが、ほかに手立てがあるのかないのか、そのあたりはぜひご

	検討いただきたいと思います。  <b>4 閉会</b>
その他の事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・会議は公開。</li><li>・報道機関取材は2社。</li></ul>